

Googleワークスペース(GWS)による町教委・幼小中高間の接続とクラウドの 効果的な利用による地域DXの推進について（提案）

北海道羅臼高等学校長 古屋順一

1 ねらい

羅臼町CS、ESD等の企画運営において、GWSを効果的に活用することで各所属間の情報共有や伝達、意思疎通をより簡単かつスムーズにし、町の教育関係全体でのDXを進め、羅臼町教育活動全体のパフォーマンスを改善する。

以下「羅臼町GWS」とする。

2 羅臼町GWSの使用方法（例）

- (1) チャットスペースによる連絡や簡単な打合せ（PDF資料等も貼り付け可能）
- (2) 共有ドライブでのデータ共有（会議資料の事前配布など）
- (3) ドキュメントやスプレッドシートによる、文書や資料等の共同編集
- (4) カレンダーによる関係者全員の一括スケジュール管理
- (5) ミートによる遠隔会議
- (6) フォームによるアンケート調査や意見集約（これは一般の町民に対しても可能）
- (7) その他GWSアプリ利用により利便性が向上する用途に活用

3 期待される効果

- (1) これまで「電話」「メール」「FAX」「C4th」「Classi」等に分かれていた情報伝達手段を、全所属共通の方法に統一することで、情報共有が極めて簡単にできるようになる。
- (2) 同時に複数の端末からのデータ共同編集が可能であり、校種をまたぐものや町教委と学校で共同して作成するような資料類を、担当者どうしがリアルタイムにやりとりしながら短時間で作成できる。
- (3) 共有ドライブにデータを保存することにより、接続するメンバー全員が自由に利用可能となるため、データをメールに添付して送付したり、USBメモリー等の媒体で手渡す必要がなくなる。さらに部署ごとに小さなドライブを作成し、利用者を限定することも可能であるため、メンバー全体には公開したくないようなデータも関係者のみで簡単に共有できる。
- (4) 会議の日程調整等、複数人から都合を聞くような場面でフォームを使うことで、電話での事前確認等が不要となる。
- (5) これら一連の作業は個人のスマホ等からでも可能であり、出先や休日でも随時対応が可能である。チャット機能の中に電話も含まれているため、個人の携帯電話番号を知る必要がなく、万一の緊急連絡も羅臼町GWS上ですべて完結できる。
- (6) メンバー全員の業務効率が飛躍的に上がることが期待でき、町の教育関係全体としてDXが具体的に一步進む。
- (7) GWSの維持管理に際して専門知識や特別なソフトウェア等は必要なく、慣れれば誰でも管理人になれる。教職員の異動によりストップするリスクが少ない。

4 Googleのアカウントについて

- (1) 町教委、幼小中側は道教委から付与されているGoogleアカウントを利用する。
- (2) 羅臼高校は道立高向けに道教委から付与されているhokkaido-c.ed.jpアカウントを利用する。
- (3) この2つのアカウントの接続は可能である（道教委ICT教育推進課に確認済み）。

5 運用について

- (1) 羅臼町GWSの立ち上げ作業は羅臼高校にて行い、メンバーを招待する形をとる。
- (2) GWS上で扱えない情報（児童生徒の個人情報に係る、いわゆる「機微情報」）について、文部科学省ガイドラインを根拠として整理するとともに、羅臼町GWSガイドラインを別途策定する。（原案作成は羅臼高校が担当し、後日関係者で協議して決定する）
- (3) 各所属ごとにGWS担当者を1名設定する。
- (4) 当面の間、羅臼町GWS全体の管理は羅臼高校で行う。